

麻疹及び風しんの予防接種について

第1期

対象者:1歳児 ※沖縄市に住民登録をしている方
対象期間:2歳の誕生日前日まで
接種回数:1回

麻疹・風しんの感染予防にはMRワクチンの2回接種が有効です。



第2期

(対象者の生年月日・対象期間は令和6年度のもので)

対象者:小学校入学前の1年間にある児 ※沖縄市に住民登録をしている方
(平成30年4月2日～平成31年4月1日生まれの児)
対象期間:令和6年4月1日～令和7年3月31日まで
接種回数:1回

☆麻疹(はしか)について

麻疹(はしか)は、麻疹ウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって発症します。空気感染するため、手洗いやマスクでは予防ができません。ワクチンによる予防が最も効果的と言われています。感染力が非常に強い上に症状も重く、合併症をおこしたり、重症化により死亡することもあります。

また、麻疹にかかってから、数年～10 数年経過した後に、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という重い脳炎を発症することがあります。

(麻疹の主な症状)

高熱、せき、鼻水、めやに、倦怠感、発疹(しばらく色素沈着を残すことがあります)。
※気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などの重い合併症を併発することもあります。

☆風しん(三日はしか)について

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。症状は比較的軽く、はっきりしない場合もあります。予後は一般的に良好ですが、合併症をおこすこともあり、軽視できない病気です。大人になってからかかると、より重症化する傾向が見られます。

また、妊婦(特に妊娠初期)が風しんにかかると、胎児に感染し、難聴や先天性心疾患、白内障、網膜症などがおこる可能性があります。(先天性風しん症候群)

(風しんの主な症状)

発熱、発疹、耳の後ろや首などのリンパ節のはれ
※合併症として関節炎、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、脳炎などが報告されています。

令和5年度以降新型コロナウイルス感染症の影響もあり、世界各国で、MRワクチンの接種率が低くなっており、麻疹の感染者が増えています。日本国内でも麻疹感染者が発生しています。麻疹は免疫を持っていない方が感染すると、ほぼ100%発症するといわれ、予防接種がもっとも効果的な予防法といわれています。

予防接種を受けることで、受けた本人だけでなく予防接種をうけることができない人(乳児や妊婦など)への感染も防ぐことができます。

●MRワクチンの副反応について

主な副反応は、発熱、発疹、鼻水、せき、食欲低下、不機嫌、だるさ、接種部位の局所反応(発赤、はれ、しこり、痛み)などが報告されています。

また、被接種者のうち0.1～10%程度に麻疹様発疹があらわれることがあります。

まれに報告される重い副反応として、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳炎・脳症、けいれんなどがあります。

厚生労働省
麻疹



厚生労働省
風しん

○予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種後に起きた健康被害が、予防接種によるものと国で認定された場合には、予防接種法に基づく補償(医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料)などを受けることができます

沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係 TEL 098-939-1212(内線 2232・2233)

※この説明書の情報は令和6年3月現在のものです。